

2002.5.27

フジ日本精糖株式会社

## 中期経営計画（14.4～17.3）

### 数値目標

（単位百万円）

	14年度	15年度	前年比（%）	16年度	前年比（%）	初年度比（%）
売上高	12,500	13,000	104	14,000	108	112
営業利益	400	700	175	950	136	238
経常利益	450	800	178	1,000	125	222
当期利益	200	400	200	500	125	250

### 主要目標

1. 経常利益2ケタ（10億円）達成
2. 株価は業界のトップクラス
3. 配当率業界トップクラス
4. 株主資本比率80%以上
5. 社員待遇改善・特別ボーナス
6. 企業ガバナンスの確立
7. イヌリン事業の確立
8. 顧客ニーズにマッチした品質の確立
9. 新しい事業・商品の構築
10. 良き企業市民としての着実な活動

## 主要目標

### 1. 経常利益2ケタ(10億円)を達成する

2ケタの経常利益のうち、約半分が不動産賃貸によるもので、工場跡地の有効利用が実現する。

工場跡地賃貸概要

場所：旧日本精糖横浜工場（横浜市保土ヶ谷区川辺町）

面積：約2万平方メートル

借主：コーナン商事(株) 東証1部上場

期間：定期借地契約20年間

業種：日用雑貨のホームセンターその他

営業開始：2003年5月目途

当社収入：約4億円(経常ベース)

また、経常利益の約1/3が食品物資だが主たる増加要素は新商品の「イヌリン」によるもの。15年度400トン、16年度1,000トンの販売を目指す。

砂糖の経常利益に占める比率は残念ながら16%だが、砂糖事業の激しい相場・市況変動による業績への影響を最小限に留める。

さらに上記3つの事業とは別に、配当・金利などの営業外収益が最低50百万円見込める。リスク管理を限度額と情報開示を基本に徹底して、金融資産の活用を図りキャッシュフローに貢献させる。

以上が実現出来れば「相互補完し合う形で、経営基盤を強化する」との両社合併の目的が達成されることになる。

### 2. 株価業界トップクラス

### 3. 配当率業界トップクラス

2ケタの経常利益が達成されれば増配も可能となる。この期間自己株取得も計画しており、1株利益の増加を図り、株価のレベルアップにつなげて、増配共々株主の利益を拡大しその期待に応える。

### 4. 株主資本比率80%以上

14年3月末現在すでに79%だが、着実に自己資本の増加に努め、少なくとも80%は確保する。また、今回の中期計画では当社の規模、置かれている経済環境から期間利益の指標である経常利益の絶対額を優先課題としたが、ROEもまず5%達成を視野に入れたい。

**5 . 社員待遇改善・特別ボーナス**

計画の進捗に合わせ、社員の給与・福利厚生などを充実させ、計画達成にともなうボーナスとしてストックオプションなどを導入して報いたい。

**6 . 企業ガバナンスの確立**

既に大株主による社外取締役・取締役任期を1年に短縮・執行役員制による取締役会のスリム化などを導入しているが、コンプライアンス経営の徹底や情報開示さらに合併による権限規程の整備などの課題を着実にこなしていく。

**7 . イヌリン事業の確立**

砂糖を原料とする高品位の食物繊維「イヌリン」を本格生産し最終年度1,000トンの販売を達成する。低カロリーで脂肪代替品になるため、現在のサンプル生産の段階でのユーザーの評価は概ね好評。事業計画は次のとおり。

14年度		設備投資額	6億円	規模	600トン
15年度	計画販売量	400トン			
16年度	計画販売量	1,000トン	設備投資額	5億円	規模1,800トン

**8 . 顧客ニーズにマッチした品質の確立**

まず現在取組んでいるISO9001の来春の取得を目指す。

**9 . 新しい事業・商品の構築**

「健康」をテーマとした健康補助食品事業の一層の拡大を目指し、機能性食品素材に重点をおき、ユーザーや学術機関を含めた業務提携やM&Aを視野に入れる。

**10 . 良き企業市民としての着実な活動**

既にささやかながら(財)フジ育英会、献血運動、寄付などにより地域社会との連帯を図ってきたが、「企業市民委員会」を立ち上げ、当社のキャパシテイや企業文化に沿った活動を地道に着実に進める。

以上